岡崎市立大樹寺小学校　校長室だより　令和６年９月４日（水）　第８８号

大樹のこころ

先行模擬授業

教師にとって一番大切な仕事は「良い授業を行うこと」です。大樹寺小学校では子供の学びをきちんと保障する授業を充実させ、また授業を通して子供たちの人間関係を醸成することで、より良い学級づくり、そしてより良い学校づくりを目指しています。

さて、より良い授業を行うためには、教師の「授業研究」が求められます。今回の校長室だよりでは、本校の授業研究の様子をご紹介します。９月５日（木）に、教科指導員をお招きして図工の研究授業が行われます。指名された授業者が綿密な指導案を作成し、それをもとに授業公開を行い全教員が参観、後に協議会を開いて研鑽を深めるものです。多くの学校では、協議会を授業研究の場と考えていますが、本校はそうではありません。もちろん授業後の協議会も大切です。しかし、それ以上に重きを置いてるのが「先行模擬授業」です。協議会は、言わば「後出しじゃんけん」。授業の問題点や改善点を指摘するだけになってしまいます。これでは後の祭り。研究授業本番でも、子供たちにより良い学びを保障しなければいけません。先行模擬授業は、研究授業そのものを成功に導くためのアイデアを考える機会となります。このアイデアを生み出すことこそ、本物の授業研究だと捉えています。

その先行模擬授業が９月３日（火）に行われました。模擬授業は、授業者が当日の学習を実際に行っていくものです。参加する教員が子供役となります。授業者の指示や発問を受けて、子供たちがどのように感じるのか、子供の理解を高めスムーズな活動を促すために、どんな教師の出が必要かを検討していきます。この日の授業者は１の３担任の三島先生です。２０名を超える先生方が、自主的に子供役となって参加しました。学習内容は、画用紙の片側にいろいろな絵の具を落とし、それを重ねて広げてできる模様づくりです。子供たちは様々な色の重なりやにじみができる模様を楽しみます。１年生なので単純な学習。しかし、いざ模擬授業が始まると、スムーズにはいきません。授業の導入で、教師が模様づくりを示演するのですが、その段階でストップです。何を子供たちに見せたいのか。教師が求める気付きを子供から引き出すために、どんな問いかけや出が必要なのか、喧々諤々。教師の小さな一言で、子供たちの活動や理解は大きく異なっていきます。このように一つ一つの授業場面を確認しながら、模擬授業は進められていきます。ところが授業後半になって、活動が行き詰まってしまいました。このままでは、学習のねらいに迫れないと、先生方は授業の前半に遡り、再検討を始めました。まさに「授業研究」です。子供の意識を大切にしながら、目標達成を可能にする方法を模索する中で、教師の授業力が高まっていくのです。

先行模擬授業は、大樹寺小の授業文化として根付いてきています。それと共に、各クラスで行われる平素の授業のレベルアップにもつながっているのです。